



2024年5月10日

各 位

会 社 名 セントラル硝子株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 前田 一彦
(コード番号 4044 東証プライム)
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部長
橋本 秀和
(TEL. 03-3259-7062)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2024年5月10日開催の取締役会において、会社の持続的成長と中長期的な企業価値向上を図るべく、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について現状を分析・評価し、今後の改善施策について策定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

以 上

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた 対応について

2024年5月10日

1 現状認識① 資本コストと資本収益性(ROE)の比較

当社の認識すべき株主資本コストは、CAPMでの推計値・投資家の期待リターンに基づく7~8%と推定
ROEは、足下の特殊事情を除けば、長期にわたり資本コストを下回っており、エクイティスプレッドを安定的に確保できていない状態

■ 当社の株主資本コスト(CAPM推計値)

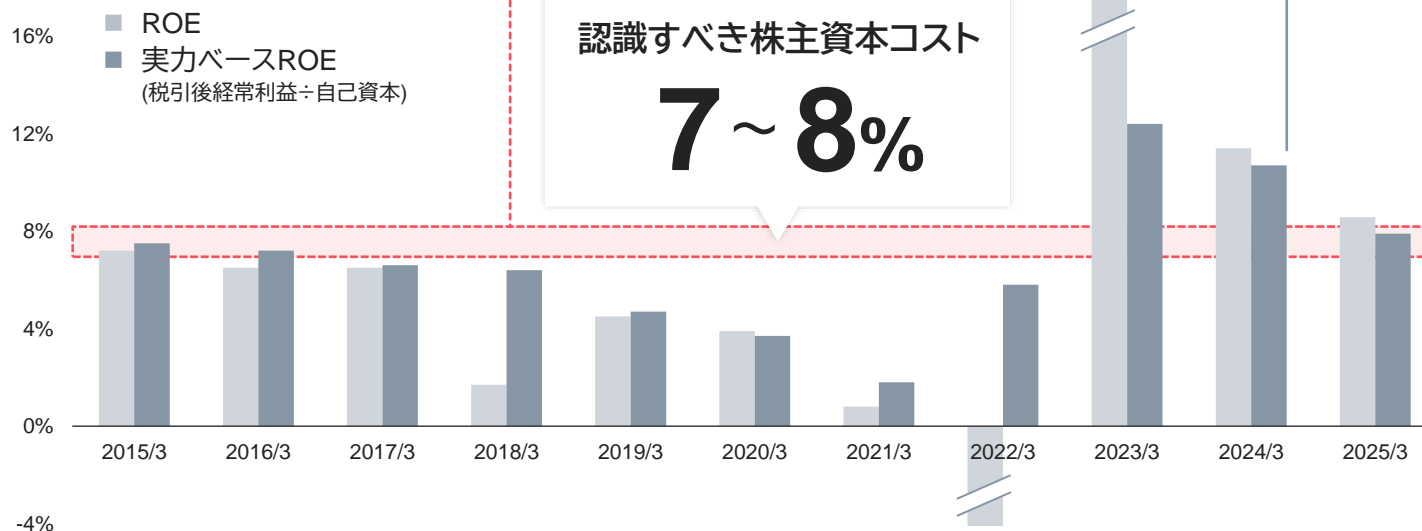
7.4%

■ 株主資本コスト計算の前提

要素	数値
①リスクフリーレート	0.62%
②β値	0.91
③リスク・プレミアム	7.4%
株主資本コスト ①+②×③	7.4%

■ ROEの推移

特別損益を除外し、定常時の税率(23%)で補正した、実力ベースのROEは株主資本コストを安定的に超過できていない状態

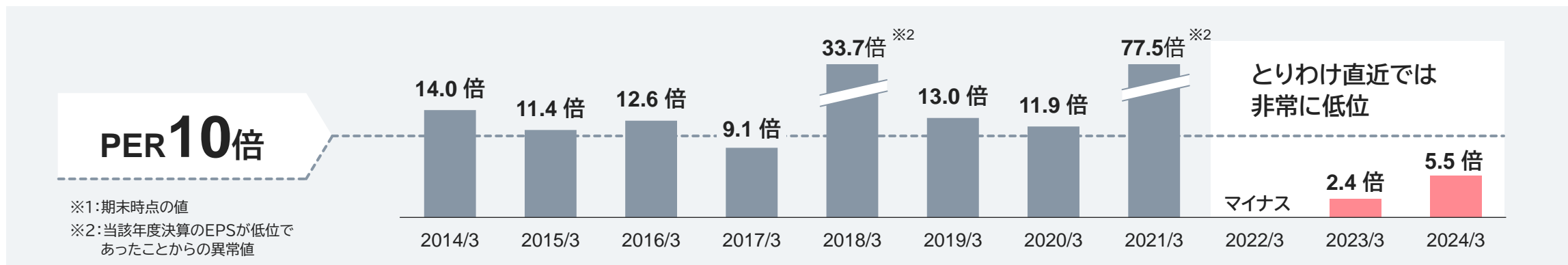


1 現状認識② PERとPBRの推移

PERは近年10倍以下と、低位に推移している状態

PBRは0.5～0.8倍水準と1倍未満で推移

PERの推移※1

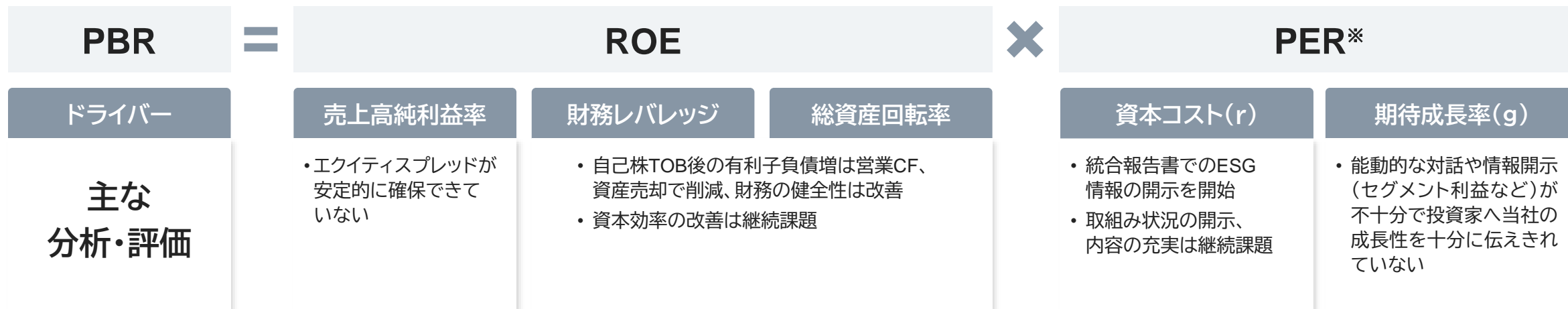


PBRの推移

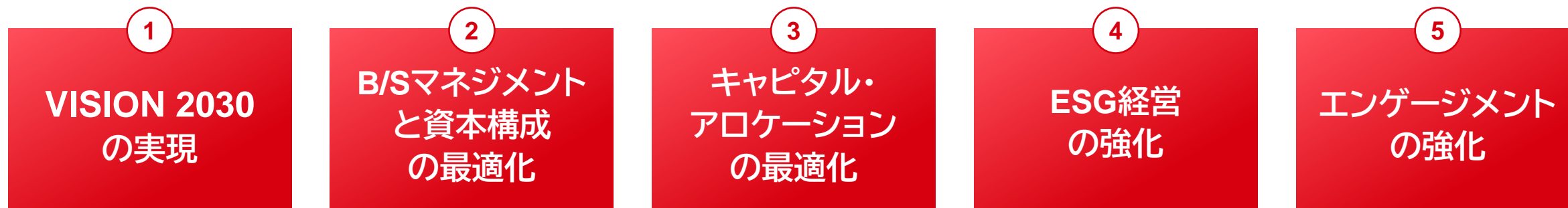


2 分析結果と改善施策

ROEとPERに紐づく分析結果をもとに、PBRの改善につながる5つの施策を実行



改善施策の実行



※PERはクリーンサープラス関係(損益計算書の「期間利益」(純利益)と、貸借対照表の「自己資本の増減」が等しい状態)を前提とする場合、株主資本コストと期待成長率の差(r-g)の逆数に収斂することから、資本コストと期待成長率をPERのドライバーとして設定

3 改善施策① 「VISION 2030」の実現

2030年までにROE10%以上を達成し、期待株主資本コストを上回る資本収益性を実現
さらに、営業利益200億円達成に向けて収益を拡大し、成長性に対する投資家からの信頼を獲得

事業戦略

■「スペシャリティ製品」の拡大

- ・ 新たな価値の創造(研究開発・独創的発想)
- ・ 強いビジネスモデルの創造

■「エッセンシャル製品」の強化

- ・ 収益力の強化
- ・ 高付加価値化

VISION 2030 ありたい姿

サステナブルな社会の実現に寄与する
「スペシャリティ・マテリアルズ・カンパニー」になる

数値目標

営業利益

200億円
(過去最高益)



ROE

10%以上

事業戦略

スペシャリティ製品の拡大

- ・ 新たな価値創造
- ・ 強いビジネスモデルの創造

エッセンシャル製品の強化

- ・ 収益力の強化
- ・ 高付加価値化

ポートフォリオの最適化

人的資本経営 の推進

- ・ ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進
- ・ エンゲージメントの向上
- ・ 健康経営の推進

環境課題 の対応

- ・ GHG削減への取組み
- ・ 循環型社会の実現への取組み
- ・ 環境負荷低減への取組み

デジタル活用 の推進

- ・ オペレーションの効率化
- ・ 経営基盤の高度化
- ・ DXに向けたデジタル人材育成

ESG経営による事業基盤強化

3 改善施策② B/Sマネジメントと資本構成の最適化

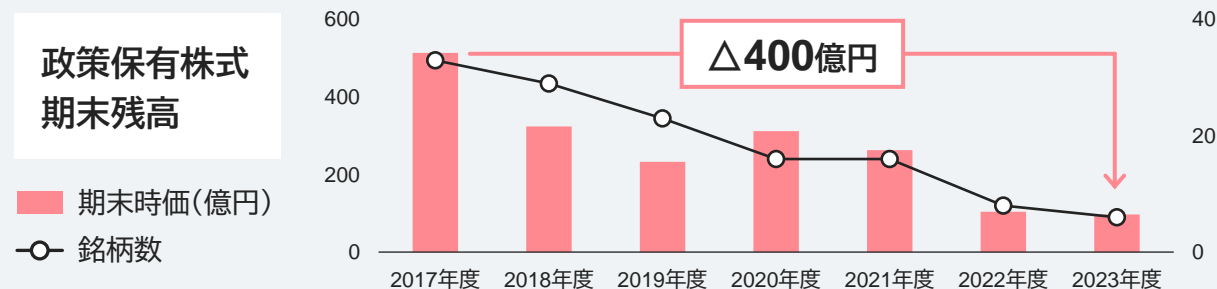
ROE10%以上の早期達成を見据え、利益成長(Rの向上)とともに、資本構成を最適化するため、バランスシートマネジメントを徹底していく

■ 連結貸借対照表(2024年3月31日現在)

総資産	2,144
事業用資産	2,033
棚卸資産	491
非事業用資産	111
政策保有株式	97
負債合計	944
有利子負債 (D/Eレシオ)	533 (0.46)
純資産	1,200
自己資本	1,149

■ マネジメントポリシー

- デリスキングに対応した調達複線化を進めた上で、在庫圧縮など、運転資本は更に適正化を実施
- 政策保有株式を継続的に縮減し、総資産スリム化につなげる



- 格付け(A-/JCR)の維持に必要な財務の健全性を確保すべくD/Eレシオは0.5以下を目安にコントロール

- エコノミック・キャピタル※(2024/3期末約1,000億円)は確保した上で、自己資本は適切にコントロール

※ムーディーズの資産レバレッジ係数を乗じて算出

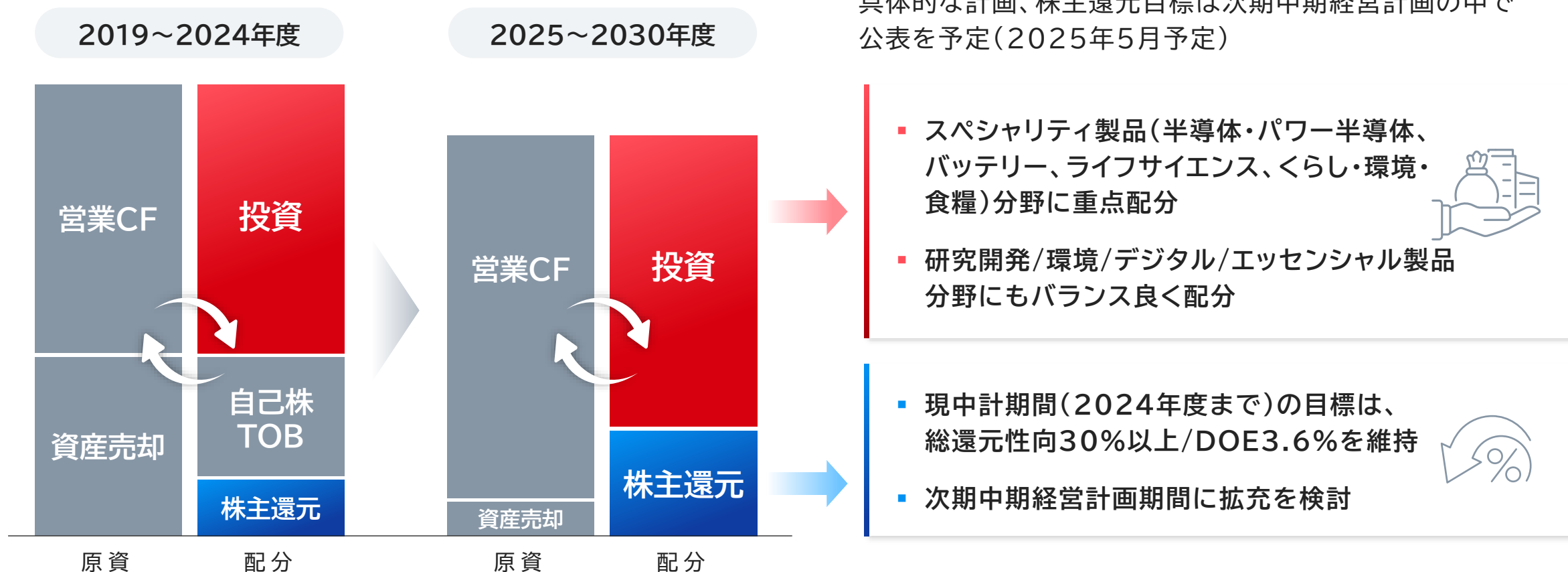
3 改善施策③ キャピタル・アロケーションの最適化

財務健全性を確保しつつ、戦略的な費用投入や投資を実施する想定
VISION2030の主要戦略に基づき、営業活動により創出・増加したキャッシュを成長投資と株主還元に分

■ アロケーションのイメージ

■ 方針

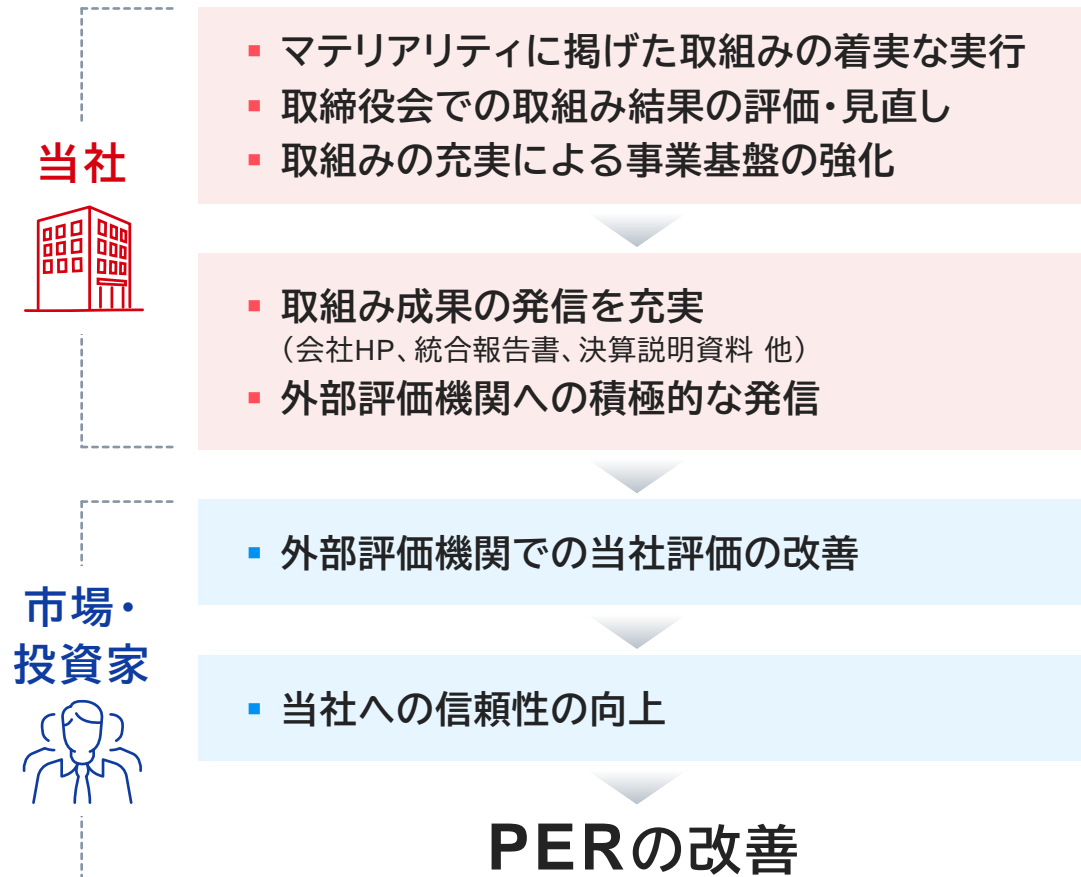
具体的な計画、株主還元目標は次期中期経営計画の中で公表を予定(2025年5月予定)



3 改善施策④ ESG経営の強化

マテリアリティに掲げた取組みの着実な実行により、外部評価機関での当社のESG評価向上を獲得し、PERの改善を目指す

■ ESG経営強化に向けた取組みのフロー



■ 外部評価機関によるESG評価の実績・目標

実績

「気候変動」「水セキュリティ」分野
で「B-」評価を獲得



今後の目標

その他の評価機関からの
高評価獲得を目指す

MSCI

FTSE

3 改善施策⑤ エンゲージメントの強化

投資家とのエンゲージメント強化に向けた施策を実行し、フィードバックを踏まえたサイクルで開示を行うことで企業価値向上を推進

■ 主な施策

コーポレート・コミュニケーション部の設置

決算説明の充実

- 資料の充実: 資料のビジュアル化、中期経営計画の進捗や本取組みについての開示
- セグメント開示区分変更(2025年)

経営概況説明会の 新設(2024年～)

「VISION2030」の成長戦略をアピール

事業概況説明会 (工場見学会)の新設

投資家との能動的な エンゲージメント

■ 投資家によるフィードバックの改善・開示サイクル

